

1, 研究テーマ

ものづくりを通して、生きる力を育む授業の創造
～「オリジナルボックスの製作」を通して～

2, 研究課題

* 研究授業 11月15日(月) 相森中学校

単元 技術とものづくり「オリジナルボックスの制作」

1年2組 授業者 宮田 明 教諭

- (1) 「技術とものづくり」の製作学習における製作品の選定と題材展開の工夫
生後にとって魅力のある製作品を選定し、生徒が発想をひろげながら学習を進めていけるような展開を工夫した。
 - <製作品の選定> 生徒にとって、加工しやすいサイズ、木材を主材料としながら、それ以外の材料を用い、生徒の願いに応じて創意工夫ができるようにする。
 - <題材展開> 規格を統一して基礎基本を学ぶ場面と、製作しながら構想や材料を考える場面を、選定し、情報を交換したり考えあったりする場面を位置づける。
- (2) お互いの良さを認め合い、それを生かすことのできる学習場面の設定と評価
各自の追究はもとより、生徒同士の関わり合いや支え合いによって、追究が深まったり広がったりする場面の設定。
- (3) 願いや課題の明確化
生徒の必要感や願いをはっきりと待たせ、その願いを達成させるために、見通しをもって追究できるようにする。
- (4) ものを見る目を育て、じっくり追究させるための手だての工夫
比較学習を取り入れる。
視聴覚機器を利用する。

3, 指導の実際

- (1) 「技術とものづくり」の製作学習における製作品の選定と題材展開の工夫
学習指導要領の技術分野の指導内容「A技術とものづくり」において、生後にとって魅力のある製作品を選定し、生徒が発想をひろげながら学習を進めていけるような展開を工夫していきたい。
 - <製作品の選定>
生徒にとって、加工しやすく扱いやすいサイズにする。生徒の技能で製作可能なものとする。
生徒の願う使用目的や使用条件を満足させる機能と構造の工夫ができるようにする。
木材を主材料としながら、それ以外の材料を用い、生徒の願いに応じて創意

工夫ができるようにする。

< 題材展開 >

規格を統一して基礎基本を学ぶ場面と、製作しながら構想や材料を考える場面を、生徒の意識にたって選定し展開する。そうすることで、自分の願いを確かなものにし、完成時の成就感をより高めることができる。

展開の中に、情報を交換したり考えあったりする場面を位置づける。

- (2) お互いの良さを認め合い、それを生かすことのできる学習場面の設定と評価
各自の追究はもとより、生徒同士の関わり合いや支え合いによって、追究が深まったり広がったりする場面の設定を工夫する。

(3) 願いや課題の明確化

生徒に必要感や願いをはっきりと待たせる事によって学習意欲がわき、追究が持続される。

製作品に対して、誰が、どこで、どのように使いたいのかはっきりさせる。
常に自分の願いに立ら返らせながら追究を深めさせるようにする。

友だちの願いや考えを、お互いに参考にできるよう工夫する。

- (4) ものを見る目を育て、じっくり追究させるための手だての工夫。

比較学習を取り入れることで、材料(道具)のもつ特徴が分かり、それぞれの良さを生かした活用ができるようになる。

視聴覚機器を利用して友だちの発想や追究の方法を紹介することで、参考になる発想や考えを学級全体に広げ、学びあうことができる。また、教材提示カメラでポイントになる部分を拡大して見やすく示したりする。

4 , この事例から明らかになったこと

- (1) 生徒の意識にたって題材を選定し、必要感や願いをはっきりと待たせる事によって学習意欲がわき、完成時の成就感をより高めることができた。
- (2) 比較学習を取り入れることで、材料(道具)のもつ特徴が分かり、それぞれの良さを生かした活用ができるようになった。
- (3) 複数の見本を示し比較させることで、違いを発見したり、自分の発想を広げ、製作品へのイメージを待つことができた。
- (4) 友だちの追究と自分の追究の方法を比較したり、製作品の構想を比較したりすることで、友だちの追究の良さに気づき、追究を深めたり、製作品に生かしたりすることができた。
- (5) 視聴覚機器を利用し、VTRなどで示すことで客観的に自己評価し、その後の追究に生かすことができた。

5 , 来年度への課題

- (1) 友だちの追究から学んだことを、自分の次の課題へとつなげていくことのできる自己評価の方法を研究していく必要がある。
- (2) 既習経験の少ない生徒に、どのように願いや必要感を掘り起こしていくか、生徒のニーズにあった題材を開発していく必要がある。